

## <対策のポイント>

福島県の農林水産業の復興・創生に向けて、福島ならではのブランドの確立と産地競争力の強化、放射性物質の検査、国内外の販売促進、第三者認証GAPの取得等、生産から流通・販売に至るまで、農林水産業の復興創生を総合的に支援します。

## <政策目標>

福島県産農林水産物等の価格を震災前と同水準に回復

## <事業の内容>

### 1. 品目ごとの取組 (ブランドの確立と産地競争力の強化)

#### (1)園芸 (交付率：定額, 5/6以内, 2/3以内, 1/2以内)

- ・高品質かつ長期安定供給可能な競争力の高い園芸産地形成
- ・輸出相手国のニーズや規制等にマッチした品目の安定供給体制の整備 等

#### (2)畜産 (交付率：定額, 1/2以内)

- ・新たな特色ある和牛肉の販売拡大を推進
- ・「福島牛」ブランド力強化のための生産基盤の整備
- ・酪農家の生産基盤の強化 等

#### (3)米・米加工品 (交付率：定額, 1/2以内)

- ・実需者が求める品質、良食味米の安定供給可能な産地の育成
- ・県オリジナル酒造好適米の安定供給体制の整備 等

### 2. 品目横断の取組

#### (1)放射性物質の検査 (交付率：定額)

- ・国のガイドライン等に基づく放射性物質の検査
- ・産地における自主検査と検査結果に基づく安全性のPR 等

#### (2)国内外の販売促進 (交付率：定額)

- ・量販店等の販売フェアや商談会の開催、バイヤーツアーの実施
- ・オンラインストアにおける特設ページの運営
- ・生産者の販路開拓等に必要な専門家によるサポート 等

#### (3)GAPや有機JASの取得等 (交付率：定額, 3/4以内, 1/2以内)

- ・第三者認証GAPや有機JAS認証の取得
- ・GAPの見える化による消費者の理解促進 等

#### (4)技術開発 (交付率：定額)

- ・収量や特性を強化する品種の開発を支援
- ・機能性成分を探索・マップ化 等

#### (5)福島県産農産物等流通実態調査 (委託)

- ・農林水産物等の販売不振の実態と要因を調査

## <事業イメージ>

### 1(1)園芸

ブランド確立や競争力強化に向けた作付実証、安定生産対策、輸出先国・地域のニーズに対応した生産・流通体制の整備に要する経費等を支援



### 2(1)放射性物質の検査

福島県や協議会等による検査の実施に要する経費、検査機器の整備・維持・管理に要する経費等を支援



### 2(2)国内外の販売促進

国内量販店等において、販売コーナーの設置や販売フェアの開催等を支援

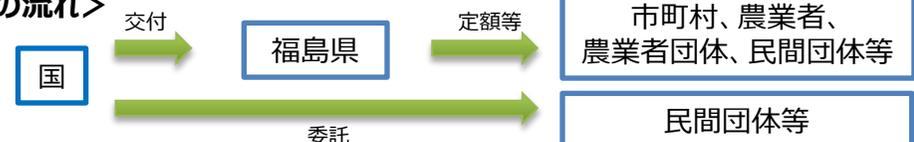


### 2(5)福島県産農産物等流通実態調査

福島県産農産物等の生産から販売に至る各段階の流通実態を調査



## <事業の流れ>



【お問い合わせ先】 大臣官房地方課災害総合対策室 (03-3502-6442)



# 福島県産品 の販売回復に ご協力ください

東日本大震災以降に福島県産品を取り扱わなくなったお取引先に、取扱再開の意向がないかご確認ください。

福島県産であることのみをもって取り扱わなかったり、買ったたいたりすることのないようにお願いします。

今後、福島県が行う販売フェア等のマーケティング活動にご協力ください。

事業の概要や調査結果は下記をご参照ください。

[https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/joho\\_kokan.html](https://www.maff.go.jp/j/shokusan/ryutu/joho_kokan.html)

お問い合わせ先

農林水産省大臣官房新事業・食品産業部食品流通課  
担当 宮崎、青山、関

TEL:03-3502-8267 mail:fukushima\_soudan@maff.go.jp



# 風評の払拭に向けて

～ 原子力災害からの復興と福島の安全・再生の歩み～

2020年4月



本パンフレットのダウンロードはこちら

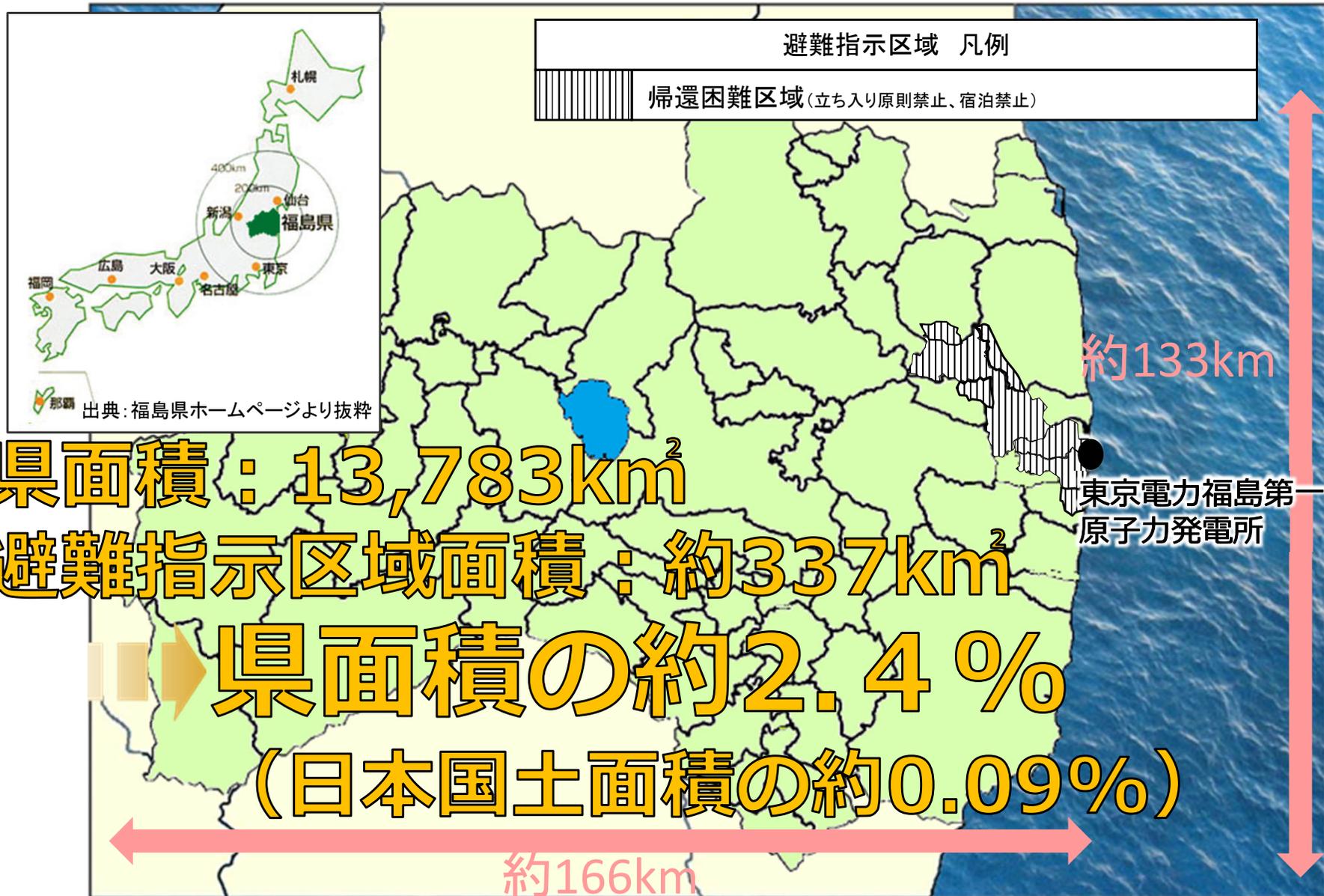
復興庁

検索



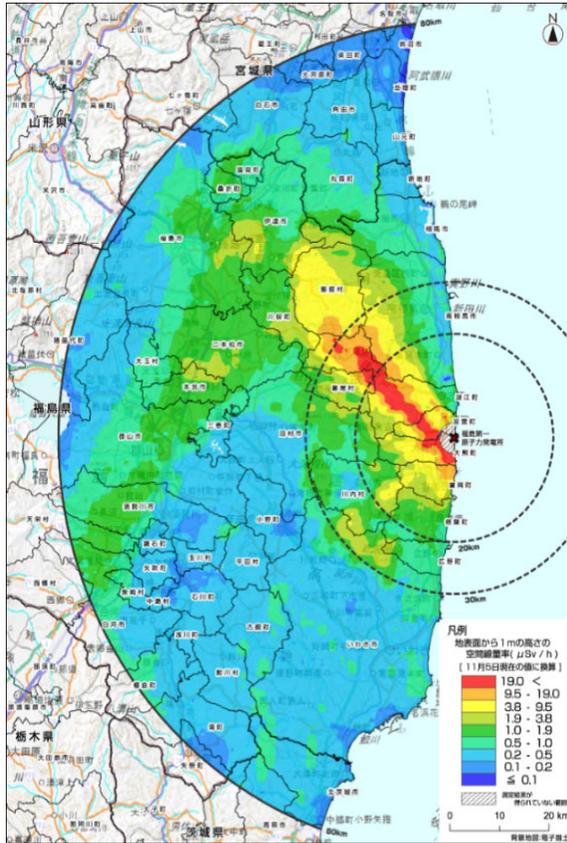
# 福島県の避難指示区域の状況

- 福島県の避難指示区域は県全体面積の約2.4%（日本国土で換算すると0.09%）。
- 県全体面積の約97.6%では通常の生活が可能。



# 空間線量率の推移

○東京電力福島第一原子力発電所から80km圏内の地表面から1m高さの空間線量率平均は、2011年11月比で約78%\*減少。



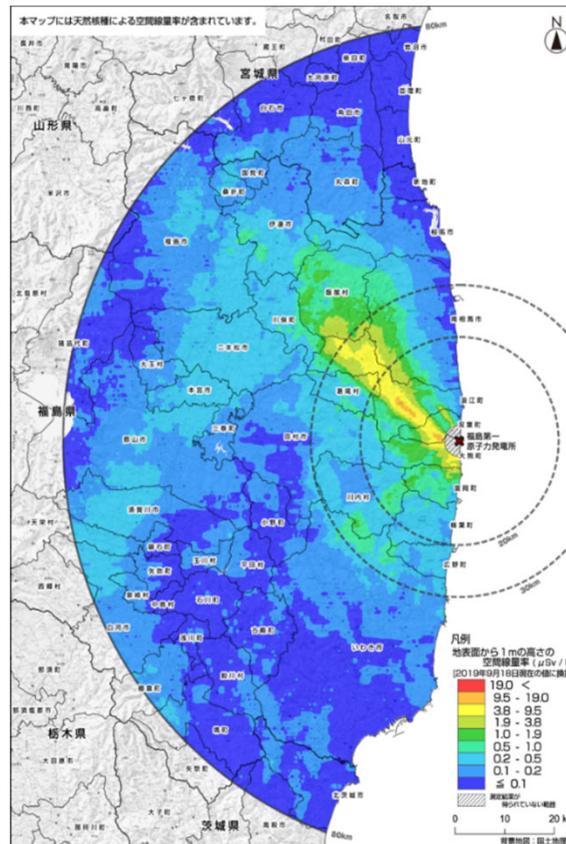
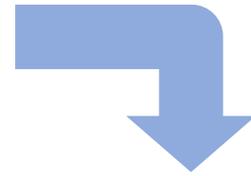
2011年11月時点

最新のデータはこちら

放射線モニタリング情報

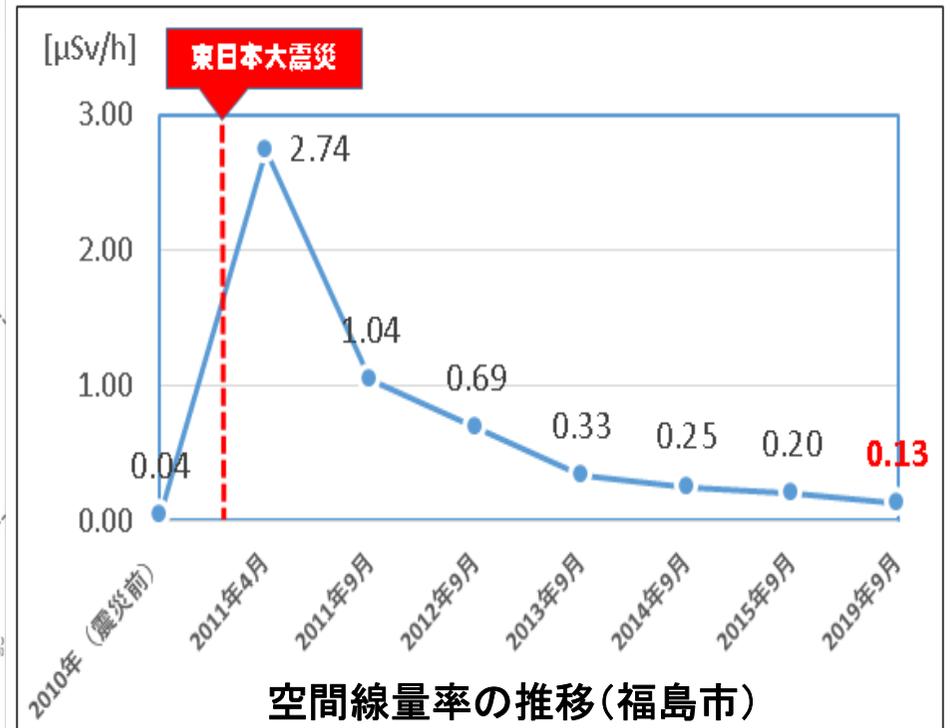
検索

<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>



2019年9月時点

(例)福島市の空間線量率は、震災直後に比べ**20分の1**以下に低下

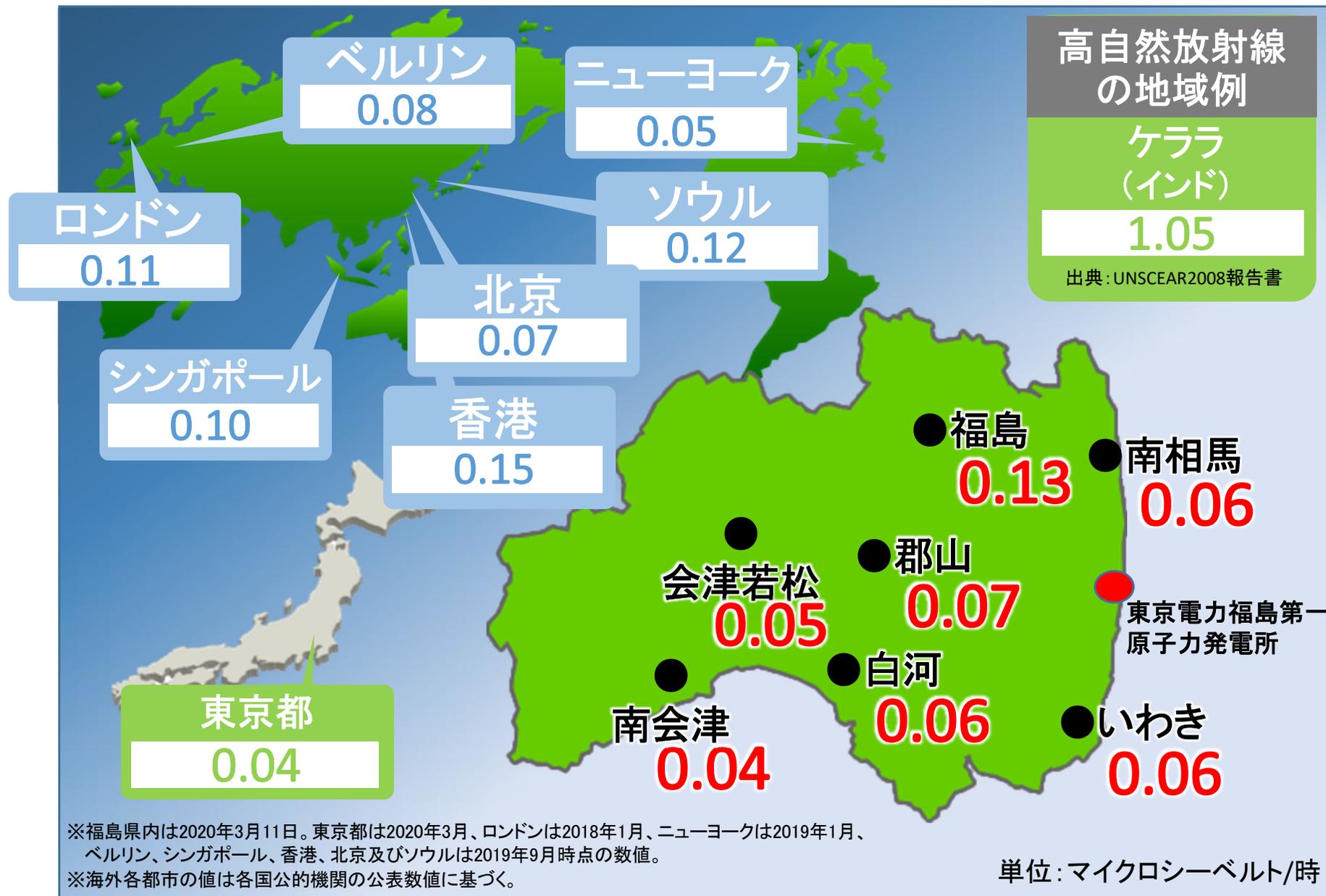


\*本値は対象地域を250mメッシュに区切り、各メッシュの中心点の測定結果の比から算出したものである。  
他の比較手法を用いた場合、減少率は異なる可能性がある。

出典：原子力規制委員会「福島県及びその近隣県における航空機モニタリングの測定結果について」  
：空間線量率の推移(福島市)については「ふくしま復興のあゆみ(第26版)」を基に復興庁作成

# 福島県内の空間線量率の現状

○福島県内の空間線量率は、海外主要都市とほぼ同水準。

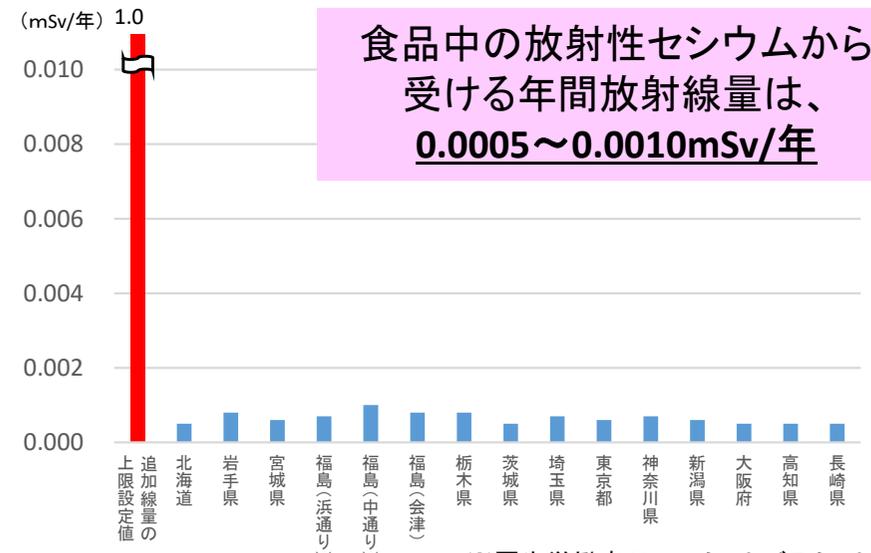


# 食品中の放射性物質に関する基準等

- 日本は世界で最も厳しいレベルの基準を設定して検査をしており、基準を超えた場合は、市場に流通しないようになっている。
- 実際に平均的な食事をした場合に受ける追加線量は、上限設定値の1/1000程度。

	日本 食品衛生法の 基準値	コーデックス <sup>3</sup> CODEX STAN 193-1995	EU Council Regulation (Euratom) 2016/52	米国 Guidance Levels for Radionuclides in Domestic and Imported Foods (CPG 7119.14)
核種:放射性 セシウム <sup>1,2</sup> (単位: Bq/kg)	飲料水 10 牛乳 50 乳児用食品 50 一般食品 100	乳児用食品 1,000 一般食品 1,000	飲料水 1,000 牛乳 1,000 乳児用食品 400 一般食品 1,250	全ての食品 1,200
追加線量 の上限設定値 <sup>2</sup>	1mSv	1mSv	1mSv	5mSv
放射性物質を 含む食品の 割合の仮定値 <sup>2</sup>	50%	10%	10%	30%

## 実際の食品中の放射性物質の量



※厚生労働省のマーケットバスケット調査 (平成31年2～3月)結果を基に作成

1. 本表に示した数値は、この値を超えた場合は食品が市場に流通しないように設定されている基準等の値である。数値は、食品から受ける線量を一定レベル以下に管理するためのものであり、安全と危険の境目となるものではない。また、各国で放射性物質を含む食品の割合の仮定値等の影響を考慮してあるので、単に数値だけを比べることはできない。
2. コーデックス、EUと日本は、食品からの追加線量の上限は同じ1mSv(ミリシーベルト)/年である。日本では放射性物質を含む食品の割合の仮定値を高く設定していること等から、基準値の数値が海外と比べて小さくなっている。
3. 国際連合食糧農業機関(FAO)と世界保健機関(WHO)が1963年に設立した、食品の国際基準(コーデックス基準)を作る政府間組織。その目的は、消費者の健康を保護するとともに、食品の公正な貿易を促進すること。2018年8月現在、188の国と1つの機関(欧州連合)が加盟している。

- マーケットバスケット調査とは、食品添加物等をどの程度摂取しているかを把握するため、スーパー等で売られている食品を購入し、その中に含まれている食品添加物等の量を測り、その結果に国民健康・栄養調査に基づく食品の喫食量を乗じて摂取量を推定する調査方式。
- 今回の調査では、全国15地域で、実際に流通する食品を購入し、食品中の放射性セシウム(Cs-134とCs-137の合計)から受ける年間放射線量を推定。

# 福島県の食品の安全性

- 農林水産物は、出荷前に徹底したモニタリング検査等を行い、結果を公表。
- 近年は基準値(100Bq/kg)を超えるものはほとんどない。
- 米は2015年産米以降、基準値超過はゼロ。
- 超過が確認された場合、市場に流通しないよう必要な措置が取られている。

## ◆米の全量全袋検査の結果 (2019年8月26日～2020年2月29日)

検査対象	検査点数	基準値超過数	超過数割合
玄米(2019年産)	約935万件	0点	0.00%

福島県内の産地による自主検査の結果はこちら

ふくしまの恵み安全対策協議会

<https://fukumegu.org/ok/contents/>

※自主検査に関しては、漁業協同組合が国の基準よりも厳しい検査基準(50Bq/kg)を設けて行っている。

## ◆福島県による農林水産物のモニタリング検査の結果

(2019年4月1日～2020年2月29日)

種別	検査点数	基準値超過数	超過数割合
野菜・果実	2,147件	0件	0.00%
畜産物	3,782件	0件	0.00%
栽培山菜・きのこ	975件	0件	0.00%
海産魚介類	5,054件	0件	0.00%
内水面養殖魚	60件	0件	0.00%
野生山菜・きのこ	768件	0件	0.00%
河川・湖沼の魚類	1,076件	4件	0.37%

モニタリング検査に関するIAEA※による評価  
(IAEAへの報告書(2018年6月)より抜粋)

これまでに入手できた情報に基づき、IAEA/FAO合同チームは、モニタリング方法や食品の放射性物質汚染に関する問題への対応は適切であり、フードサプライチェーンは関係当局により効果的にコントロールされていると理解している。

※IAEA=国際原子力機関





タブレット先生

さらに福島の今を知りたい方はこちら

検索



# 「おいしい福島」～動画による福島県産農産物等の魅力と安全性の発信～

- 福島県が生産・販売に力点を置く農産物等を中心に、その魅力と安全性を短く、分かりやすく、かつ楽しく観られる動画を制作、YouTubeで配信。雑誌との連動企画も展開。
- 動画を観て福島県産農産物等に魅力を感じた消費者がすぐに購買行動に移すことができるよう、動画内や特設ページ上に福島県やJA全農が運営するインターネット通販サイト「ふくしまプライド便」「JAタウン」へのリンクを表示。

## 概要

14動画合計で**730万回以上再生** (R4.2時点)

### ポイント1：インフルエンサーの活用

[R3年度第1弾]  
ぼる塾 (お笑い芸人)

YouTube  
チャンネル登録者数  
22.2万人  
Instagram  
フォロワー数 11.1万人  
(田辺さん)



上：桃農家訪問編  
下：桃スイーツ料理編



雑誌Hanakoとの連動企画

[R3年度第2弾]  
あばれる君  
(お笑い芸人)



YouTube  
チャンネル登録者数 23.9万人  
Twitter フォロワー数 26.5万人



しいたけセンター訪問編



しいたけ農家訪問編

[R2年度発信 (10動画)]



第1弾

リュウジさん  
(料理研究者)



第2弾

フォーリアデバ はっしーさん  
(ケルメンターティナー)



第3弾

ロバート馬場さん  
(お笑い芸人)



第4弾

さかなクン  
(魚類学者、タレント)

### ポイント2：楽しい内容としつつ安全性にも訴求



### ポイント3：購買行動の喚起



特設ページ

ネット通販サイトへの  
リンク



ふくしまプライド。  
ふくしまの農林水産物・逸品をご紹介します!  
訂正: くらからか



<特設ページQRコード>

